

テーマ：ピアノレッスンにおけるソルフェージュ教育の可能性



講師：森山智宏

1977年生まれ。桐朋学園大学音楽学部研究科作曲専攻修了。作曲を北爪道夫、飯沼信義、鈴木輝昭、ピアノを間宮芳生の各氏に師事。第68回日本音楽コンクール作曲部門入選。第17回奏楽堂日本歌曲コンクール第1位。ピアノデュオ瀬尾久仁&加藤真一郎、東京混声合唱団、日本演奏連盟、指揮者山田和樹氏、プリムローズ・マジック等より委嘱を受け作品を発表。ピティナやカワイ音楽コンクール等で作品が課題曲に選ばれる。現在、桐朋学園音楽部門の専任教員として勤務する。日本作曲家協議会理事。全日本ピアノ指導者協会正会員。

要旨

ここ数年、色々ご縁があり、作曲活動の軸が「こどものためのピアノ作品」になっている。また、私が勤務する桐朋学園でも、併設する「こどものための音楽教室」でソルフェージュ主任を務めている。もちろん私自身、今までも作曲活動やソルフェージュ教育・理論教育の現場にいて、「ピアノ」という楽器の存在は、非常に大きな存在であったが、最近特に、「ピアノ」そして「ピアノ教育（特にこどものための）」について考える機会が格段に増えた。

実技教育とソルフェージュ教育は、本来密接に結びついているものであり、それらを切り離して考えることはナンセンスである。「活きたソルフェージュ教育」は、実技教育との関連があって初めて出来るものである。しかし、自戒を込めて言えば、「専門性」の名の下で、その当たり前なのが、教育現場では見過ごされがちな現実があるかもしれない。

今回のワークショップのタイトルを「ピアノレッスンにおけるソルフェージュ教育の可能性」としたのは、このような理由がある。また、私自身がこのテーマに取り組むことで、改めて、日々の教育活動を見つめなおしてみたい、という強い思いもあった。

まだ私が描く理想には道半ばの状態ではあるが、以上のような観点から、私がソルフェージュ教育・ピアノ教育の現場で日々考えていること、実践していることを紹介していきたい。本日のワークショップが、ピアノの先生方のレッスンの一助になれば、と心から願っている。